悠ゆう

'06.3.17 栄市

病める人の悲しみは　私達の涙
病める人の喜びは　私達の幸福
病める人のわれらへの感謝と賞賛は
私達の生命力と情熱の源
彼らこそ　われらが恩師

「医人とその心 ～丁 栄市」より

第 8 号
2008
春
平成20年6月発行　編集／広報委員会

INDEX

病院機能評価の更新認定を受けました
医療安全管理室室長　高 京子 …… 01
モービルCCU（ドクターカー）出動例紹介
副院長　丁 毅文 …… 03
心臓リハビリテーションについて
理学療法士　大原 雅浩・池田 麻里子 …… 05
生理機能検査について
臨床検査技師　中澤 健太・秋葉 秀哉 …… 07
看護部 新入職員オリエンテーション
看護部長　網 信子 …… 09
病院施設紹介
管理部長　金 忠司 …… 10

医療法人社団 栄悠会 綾瀬循環器病院／あやせ循環器クリニック　http://www.ayaseheart.or.jp

病院機能評価の更新認定を受けました

文：医療安全管理室室長　高 京子

病院機能評価＝『病院の通信簿』

病院機能評価とは、(財)日本医療機能評価機構が行う、医療機関に対しての審査です。

良質な医療を提供しているかどうか、日々の診療活動における問題点を把握できているかどうか、問題改善への取り組みがされているかどうかなどが、一定の基準に基づき評価されます。

その審査基準をクリアした病院には認定証が発行されます。評価結果は『病院の通信簿』と言えます。

受審の目的

病院機能評価の基準はとても厳しいものです。現在、全病院数が8,892あるなかで、認定病院数は2,452。しかも今回の審査は、初回認定率が30%以下という難関でした。

そんな難関へのチャレンジの目的は、栄悠会の医療理念・医療方針の実現に向けた第3期プロジェクトに合わせ、組織や医療体制を更に向上させることにありました。

プロジェクトとの同時推進は相当の覚悟とエネルギーを要しましたが、スタッフの情熱・努力により、無事に実施することができました。

更新認定をクリア

綾瀬循環器病院では、昨年12月に病院機能評価を受審し、今年2月に更新認定を受けました（初回認定は2003年1月、5年毎更新制度）。

認定はゴールではなく新たな課題のスタートラインです。第3者機関の客観的評価をもとに、病院の現状と問題点を正確に把握することで、今後の明確な目標を設定することができました。

今後の目標

審査結果に提示された課題を社会的ニーズとしてとらえ、病院･クリニック共に、積極的かつ継続的に取り組んでいきます。麻酔医･病理医は全国的に不足しており、確保は非常に困難ですが、採用努力をしていく所存です。

今後も、地域の循環器センターとして、一層の役割を担えるよう向上努力を重ねて参りますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

評価５：極めて適切に行われている
（極めて少ない評価、全国的モデルケース等）
評価４：適切に積極的に行われている
評価３：認定レベル　　評価２～１：認定不可

審査結果報告書 総括より一部抜粋

心臓血管外科を中心とした循環器疾患専門病院として地域医師会、救急連絡協議会、CCU ネットワーク等と連携や情報交換を行いながら、急性期医療を実践して来られた。その中でビジョンの推進に向けた、2 次･3 次のプロジェクトを実施されていることは高く評価される。

特に、2007 年 11 月に「あやせ循環器クリニック」を立ち上げ、既設外来診療機能を分離。今後は両院のスケールメリットを活用し、地域に高度な医療を提供する医療機関としてその機能を存分に発揮されることを期待したい。

一部更に取り組むべき事項も散見された。院長が掲げる３次プロジェクトの早期実現への実践、今回課題の実践が、医療の質向上、職員の活性化、経営改善に結びつくことを期待したい。

領域	平均評価	総括
病院組織の運営と地域における役割	4.0	病院の理念・基本方針が明文化され、病院の役割と将来計画は適切に認識され計画策定されている。病院管理者・幹部は、院長直轄の医療安全管理部を中心として医療の質の向上や医療サービスの改善の取組みなどにリーダーシップを良く発揮している。情報管理機能の整備と活用、関係法令遵守、職員の教育・研修は適切に実施されている。医療サービス改善活動は「星マーク制度」による安全医療実行活動が活発に行われており、高く評価される。地域の保健・医療・福祉施設等との連携と協力、地域に開かれた病院については地域連携室が中心となり良く対応されている。
患者の権利と安全確保の体制	3.6	病院の理念、基本方針、患者の権利が明文化され院内に掲示されているが、病院の考え方を患者や利用者に文書と言葉で説明努力の継続を期待したい。説明と同意は適切に対処している。 患者の安全確保は、医療安全管理部を設置し医療安全管理者が専従で活動している。「星マーク制度」は全職員が安全な医療に関する目標を持ち半期毎に評価し表彰する制度で、これら医療事故防止への取組み姿勢は高く評価できる。安全確保の活動では「インシデント報告分析しシステム」を導入し情報収集・分析・改善策が整理されている。今後は各部門からの報告件数を更に高め改善策に活用されることを期待したい。安全確保のための情報を「ルールブック」として院内LANに掲示し周知徹底と情報共有を図っている。医療事故への対応、感染管理への対応は適切である。
療養環境と患者サービス	3.5	療養環境は建築段階から快適性に配慮し環境整備に取り組み、行き届いた対応がなされている。食事、ベッド・マット、浴室の配慮は適切である。 接遇と案内では受付や案内対応など配慮はみられるが一層の接遇教育を、案内掲示は文字の大きさ、見易さなどの配慮、医療相談室は表示、院内案内図への明示と専門担当者の配置が望まれる。 患者・家族の意見の尊重は投書箱等で、意見や苦情への対応は担当者とCST委員会が行い適切である。利便性とバリアフリーは病棟の公衆電話でプライバシーや車椅子利用者への配慮が、全館禁煙は方針・理念は明確で禁煙が守られているが、玄関ホール等にその旨の掲示が望まれる。
医療提供の組織と運営	3.6	診療上の基本方針や目標は具体的な課題や目標数値を設定するなど、職員の行動を促す目標の設定が望まれる。体制については機能等を考慮すると麻酔科及び病理科医師の確保が望まれる。 看護部門の理念・目標は活動計画をより具体的に、教育・研修は新規採用者と経験者の教育が計画的に実施されているが技術的支援のできる人材育成への取組みが望まれる。看護の質を改善する仕組みは適切である。 薬剤部門、集中治療室、救急部門、画像診断部門等各部門の体制・運営は適切である。 NST活動や患者・職員への情報発信活動が評価できる。図書室機能は整備・充実が望まれる。
医療の質と安全のためのケアプロセス	3.4	診療・看護の基本方針と目標、責任体制は明確だが、目標や活動計画は具体的なものが望まれる。入院診療の計画的対応は入院目的は明確で計画の説明も丁寧である。薬歴管理、服薬管理指導、輸血・血液の管理・実施、栄養管理・食事指導、療養の継続性、心臓リハビリは適切に行われている。 感染対策は感染リスクを低減させる具体的感染対策が実施されており評価できる。病棟は安全で快適に保たれている。医療機器は24時間体制で臨床工学技士に管理されているなど適切である。 入院診療の評価・計画は患者・家族の意見反映と説明・同意の仕組みの検討、ケアの実施は医療相談室との連携強化、終末期ケアは多職種による取組みが望まれる。看護記録は看護過程の記録が充実されるよう効果的な監査方法を検討されたい。
病院運営管理の合理性	3.7	人事管理、人事考課、労働安全衛生、財務・経営管理、機器管理体制は適切である。 機能・役割を考慮すると麻酔科、病理科、MSWの確保、医事業務ではレセプトの返戻・査定率、物品管理の合理的物流管理等に向上が望まれる。

財団法人 日本医療機能評価機構　http://jcqhc.jp/html/index.hthm

特集（第2回）

モービルCCU（ドクターカー）出動例紹介

緊急手術で救命した腹部大動脈破裂

文：副院長　丁 毅文

2008年2月腹部大動脈破裂によるショック症例に対して綾瀬循環器病院専用の救急車（モービルCCU）が出動し、緊急手術を行い救命できましたので報告します。

モービル CCU 出動

64歳　男性

経過

数年前から高血圧があるも放置していた。数ヶ月前から腰の痛みがあったが我慢していた。2008年2月25日起床後、突然の腹部の激痛が出現。その後、意識消失となり台東区内の病院へ救急搬送された。血圧60台、心拍数88回/分、腹部の痛みは持続していた。輸液を行いつつCT撮影で腹部大動脈瘤破裂の診断を得たのち綾瀬循環器病院へモービルCCUの要請があり出動した。

2月25日

【14時30分】　綾瀬循環器病院から福本医師を含む3名がモービルCCUで出動。

【15時10分】　モービルCCU　台東区内の病院を出発。搬送中、輸液、薬の投与で血圧および痛みのコントロールをおこなった。

【15時30分】　綾瀬循環器病院到着。

【16時】　腹部大動脈破裂に対して緊急手術施行。

腹部大動脈瘤CT像（術前）

手術所見

全身麻酔下に腹部正中切開で腹腔に到達。腹腔内は血性腹水と凝血塊、後腹膜に大量の血腫あり。腎動脈下に60mm以上の腹部大動脈瘤を認め右腸骨動脈瘤からの腹腔内への破裂を認めた。腹部大動脈および両側腸骨動脈を遮断し出血をコントロールした（下腹部、下肢への血流は一時的に停止）。大動脈瘤を切開し大動脈―腸骨動脈を人工血管で吻合し血流を再開させた。手術中に出血はコントロールされ血圧、血行動態は改善した。腹腔内を洗浄し腹膜、腹壁を縫合閉鎖し手術を終了した。手術時間3時間25分。

治療経過は良好で翌日には人工呼吸器も離脱し会話も可能となる。その後、徐々に全身状態は回

復し一般病棟へ転床となる。リハビリを行い歩行も開始。その後も内服薬での血圧コントロールおよび引き続きリハビリを順調に行いエルゴメーター（固定式自転車）での運動も可能となった。術後腹部CTで大動脈瘤は消失し、人工血管で良好に血流が再建されていることを確認した。

3月19日

歩行退院となる。

術後CT像

まとめ

大動脈瘤は高血圧，高脂血症，喫煙などに合併します。腹部大動脈瘤ではまれに腰痛，腹部膨満感，胸部大動脈では声がかれるなどの症状が出てきますが，多くは破裂するまで無症状です。

診断はCT撮影，超音波検査などで行います。腹部大動脈瘤は破裂前に予め診断がついていれば比較的安全に手術で治療できます。体格や動脈瘤の形にもよりますが，胸部大動脈瘤は6cm，腹部大動脈瘤は5cm以上で治療の対象となります。それ以下の大きさであれば半年ごとに検査で拡大傾向がないかを調べます。腹部大動脈瘤の位置や大きさにもよりますが，手術による危険性はおおよそ1%以下です。最近では開腹せずに治療するステントグラフト挿入術も行われています。したがって早期診断，治療を行えば安全に確実に治せる病気です。

大動脈瘤は診断，治療が遅れると致命的となります。とくに破裂した場合は急激な血圧低下からショック状態となり手術が間に合わない場合があります。切迫破裂もまた適切な処置と緊急手術を要します。搬送中の血圧上昇などにより破裂への進行，出血量の増大，出血性ショックにともなう合併症を防止する必要があります。

今回もモービルCCUが治療までの時間を短縮させ，早期診断，早期治療をもたらしました。これにより救命はもちろんのこと治療後の順調な経過へ大きく役立ったといえます。

足立区、近隣の病医院、先生方へ

モービルCCUのご利用について

当院はICU、CCU、手術室ともに24時間体制で急性循環器疾患に対応しております。ICU、CCUは12床、手術室2室、カテーテル検査治療室2室を備えています。モービルCCUの要請があれば医師と看護師または技師スタッフがお迎えに参ります。モービルCCUには心拍モニター、救急医薬品,電気的除細動器を装備し、携帯型心エコー装置、気管内挿管、人工呼吸器、大動脈バルーンパンピング（IABP）、経皮的心肺補助循環装置（PCPS）が搭載可能です。

モービルCCUが必要な疾患について

（1）虚血性心疾患:不安定狭心症、急性心筋梗塞、緊急冠動脈バイパス適応症例
（2）大動脈疾患:胸部、腹部大動脈瘤破裂または切迫破裂、大動脈解離
（3）致死性不整脈:心室頻拍、心室細動、完全房室ブロック、洞機能不全症候群

専用TEL
03-3605-7782

心臓リハビリテーションについて

文：理学療法士　大原 雅浩・池田 麻里子

心臓リハビリテーションとは

「心臓リハビリテーション」とは、狭心症・心筋梗塞の急性期治療後や心臓手術後に、安全かつ迅速に社会復帰し、病気の再発を防ぐことを目的としています。

入院した患者さんは、心臓の悪い部分を手術やカテーテルにて治療しています。しかし、これだけでは心臓病の症状は完全に解消されないことがあります。心臓病をわずらうと、心臓が悪くなるのに伴って、手足の筋肉・血管・自律神経系等も、悪くなってしまうことがあります。心臓リハビリテーションを行うと、これらの回復も期待でき、全身状態も良くなります。

心筋梗塞や狭心症は、主に心臓の表面を走る冠動脈の動脈硬化が原因です。再発予防には、原因となる動脈硬化の進行を防ぐことが大切です。動脈硬化の進行を防ぐには、食事療法や禁煙とともに、運動療法が有効であることが分かっています。

心臓リハビリテーションの効果

①心肺機能がよくなり、体力が向上します。
→疲れにくくなります。
②筋肉や骨が鍛えられ、老化を防ぎます。
→「第2の心臓」といわれる脚の筋肉が心臓の働きを助けます。
③血管がやわらかくなります。
→血液の運びが良くなるため、手足の冷えが改善します。
④自律神経が安定します。
→不整脈を減少し突然死等の不安を減らします。
⑤生活の質が改善します。
→「生活の質」とは、やる気、希望、日常生活の快適さなどのこと。
⑥精神面においても良好な効果があります。
→心臓病患者の40％は精神的に不安定になります。うつ状態の改善は寿命を延ばすといわれています。
⑦再入院率および医療費の支出額を改善します。
→再発を予防することが再入院率の減少や服薬量減少等につながり、医療費の減少も期待できます。

入院リハビリテーション

当院では入院されている患者さんに対して、退院までの社会復帰を目的とした心臓リハビリテーションを行っています。

治療後、療養生活で衰えた体力に合わせて、身の回りの動作を一人で行えるように、心臓の状態を確認しながら少しずつ動く量を増やしていきます。そして、身の回りの動作が行えるようになると、リハビリテーションセンターにて有酸素運動と呼ばれる心臓に良い効果をもたらす運動

を行います。

リハビリテーションセンターにはいろいろな種類の機械を揃えているため、自分にあった運動方法を選択できます。また、隣の人と会話をしながら、楽しく運動ができる開放的な空間となっています。

外来リハビリテーション

5月から外来心臓リハビリテーションを開始しました。外来リハビリテーションは、再発予防のために退院後の生活習慣を見直す際、適切な運動習慣を身につけていただくことを目的としています。

退院された患者さんは、生活習慣を自己管理していくことになりますが、全てをチェックすることは難しいのではないでしょうか。

その例として、どれくらい動いていいのか分からずに心臓が疲れすぎてしまう方や、逆に心臓を大切にしすぎて、ほとんど動かず心臓が弱ってしまう方が見受けられます。

いくら禁煙しても、食事に気を付けていても、薬をきちんと飲んでいても、このような生活では治療が終わった心臓の機能を回復し、維持することができなくなります。

そのためにも、私たち理学療法士の専門的な知識や技術を用いて、退院された患者さんの運動習慣の見直しやサポートを行っていきたいと思っています。

個々の患者さんにあった運動の強さで、安全かつ効率よく運動を行い、有意義な生活が送れるからだ作りを一緒に目指していきましょう。

生理機能検査について

文：臨床検査技師　中澤 健太・秋葉 秀哉

はじめに

当院で実施している生理機能検査は主に①心臓機能を判定する心臓超音波検査（以下心エコー検査）②狭心症の判定をする運動負荷心電図検査③不整脈の頻度等を検査するホルター心電図検査④血管の硬さ下肢血管の詰まり具合を見る血圧脈波測定検査（以下ABI検査）があります。

いずれも食事制限や、薬剤の使用、痛みが無く、身体的な負担無しで検査できるものがほとんどです。今回はその中でも特に簡易的かつ効果的、迅速的に結果を出せる検査である『心エコー検査』と『ABI検査』について紹介させていただきます。

心エコー検査（心臓超音波検査）

心エコー検査とは、超音波をあてて心臓の状態を調べる検査です。

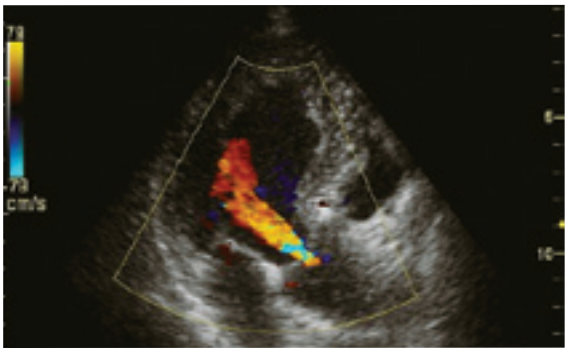
超音波とは、人間の耳には聞こえないくらい高い「音」のことです。超音波を心臓にあてると、やまびこの様に音が跳ね返ってきます。この音を機械で画像に直しているのです。

心エコー検査は「音」を心臓にあてているだけですので、痛みもなく、体に害を与えることなく検査できます。とても安全な検査ですので、妊婦さんが胎児を見るのにもエコーが使われています。

特徴

心臓は４つの部屋に分かれていて、それぞれの部屋の間は弁で仕切られています。この弁が壊れてくると弁膜症と言って、血液が前の部屋に逆流してしまいます。エコー検査は、心臓の中に流れる血液に色をつけて観察することができます。そのため、弁膜症の診断はエコーの得意分野なのです。

また、心臓に栄養を送っている冠状動脈という血管は、細すぎてエコーではほとんど見えません。そのかわりに、心臓の壁の動きはエコーで観察できます。心筋梗塞で冠状動脈がつまると、つまった血管が担当している部分の心筋に栄養や酸素が行かなくなり、壁の動きが低下します。エコーで、心臓のどの辺りの壁の動きが低下しているかを見れば、どこの血管がつまったのかをおおむね予測ができます。



大動脈弁から左心室に向かって、中程度の大動脈弁逆流が見られます。大動脈弁が閉じたときに弁の間にすきまがあり、そこから血液が逆流していました。

エコーでは、心臓の大きさ、形態、心筋の厚さ、動き、弁の状態（逆流・狭窄）などの情報が得られます。手術前の心機能の評価や手術後の経過観察としても実施しています。

ABI 検査（血圧脈波測定検査）

ABI検査は両手両足の血圧を同時に測定する事により、下肢血流の良し悪しや、原因である動脈硬化の進行度を数値化し判定します。健康診断でも実施されている簡単な検査です。

特徴

ABI検査では簡単に血流が良いか悪いかの判定と、動脈硬化の進行度をチェックできます。検査時間は５分程度でその後すぐに結果が出ます。その結果により改めて、下肢血管のどこがどの度程詰まっているかが判定できるCTやカテーテル検査等の精密検査を受けていただければ良いので気軽に検査できます。

画像は歩行時下肢の痛みを訴え外来受診をされた方のCTです。診察当日ABI検査を受け左右共に下肢血流が悪いことが判明しました。

その後カテーテル治療にて血管の拡張と下肢バイパス手術にて血流の改善をしました。

現在は症状も無く定期的な外来受診にて経過観察とされています。

看護部 新入職員 オリエンテーション

文：看護部長　網 信子

年に1度の大イベント『新入職員オリエンテーション』

春ははじまりの季節です。今年もまた、12人の新たな仲間が看護部に加わりました。

毎年この時期には、新入職員に向けてのオリエンテーションが行われます。看護部では、このオリエンテーションのために連日打ち合わせを重ね、綿密にスケジュールを立ててきました。

今回は、オリエンテーションの内容と、新入看護師たちの様子などご紹介します。

3日間の集中的なオリエンテーション

3日間で集中的に行われたオリエンテーションでは、当院の基本理念や治療方針、全ての検査、記録物の記入方法を学びました。

新入職員同士もコミュニケーションがとれるように環境を整え、現任のスタッフをはじめ、師長が中心となって、指導を行いました。

オリエンテーションでの新入看護師たち

看護の経験のない看護師、数年の経験がある看護師、どちらも同じ時間を共有し、全員が初心のスタートラインに立って、1つ1つ真剣に当院の特殊性を学んでいたように思います。

新入看護師たちに望むこと

これから、多くの患者さんを救命するために、たくさんの事を経験すると思います。

その経験から、看護師になったことに対する充実感･満足感･達成感を感じ取れれば、きっとすばらしい看護師に成長することでしょう。

この新入看護師たちが1日でも早く一人立ち出来るように、医師をはじめ現任看護師、各コメディカルスタッフが一丸となり、数年にわたり教育･指導を続けていきます。

最後に

新しいスタッフの顔を見かけましたら、お気軽に声を掛けください。

きっと彼･彼女たちは、毎日少しずつよい笑顔を見せ、患者さんにたくさんの安心を与えてくれるのではないかと期待しております。

病院施設紹介

文：管理部長　金 忠司

第3期事業では、職員の労働環境の改善にも取り組みました。今回は、日頃皆さんが目にすることがない職員スペースをご紹介します。

カンファレンスルーム

この部屋は、症例検討会、安全管理委員会、勉強会等で使用します。院内LANで電子カルテ、PACS（画像閲覧システム）でCT、超音波画像等を瞬時に見れるようになっております。また4月25日には、患者さん御家族向けのAED講習会なども開催されました。

リフレッシュラウンジ

職員の休憩コーナーです。全職員が利用でき、ミニキッチンを設け、無料でできたてのコーヒーを出しています。床や扉等の色調を職場と変えることにより、気分をリフレッシュできる心安らぐ空間になりました。

職員食堂

リフレッシュラウンジ同様にイメージを一新しました。入り口部分は、森をイメージさせ、天井等や扉は木目調にしました。ゆったりとした快適なスペースで、美味しい食事をとれるようになりました。

お知らせ
INFORMATION

75歳以上の方へ

4月より後期高齢者医療制度が始まりました。75歳（一定の障害がある方は65歳）以上の方は、診察の際、必ず受付に「後期高齢者医療被保険者証」ご提示して下さい。また、これから75歳になる方は、75歳になる誕生日の当日からとなります。

外来変更

7月23日より循環器外来の水曜日第1診、金曜日第3診の担当医が変更となります。受付にてご確認ください。

- **押富　隆 医師**
  ↓
  朴沢　英成 医師

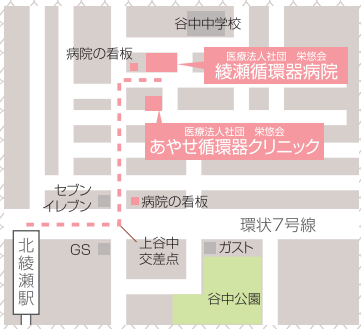
編集後記

4月より循環器科の朴沢英成医師と多数の新入職員を迎え、病院全体活気に満ち溢れております。昨年お伝えできなかった新入職員のオリエンテーションについて今回掲載しました。患者さんに安心・安全な医療を提供すべく、カリキュラムに沿って、知識・技術の向上に努めます。また途中の報告ができたら思います。

広報誌編集委員

外来心臓リハビリテーション（運動療法）開始しました。

外来心臓リハビリご希望の方は、医師の指示書が必要となりますので、
外来診察時に担当医師にご相談ください。

- **実施日**　**月・水・土（頻度は患者さんごとで異なります）**
- **時　間**　**午前11:00、11:30　午後13:00、13:30、15:00、15:30（各1時間）**

医療法人社団 栄悠会
綾瀬循環器病院／あやせ循環器クリニック
〈病院〉
〒120-0006　東京都足立区谷中3-12-10
TEL 03-3605-2811（代）　FAX 03-3605-2118
E-mail：eiyuukai@ayaseheart.or.jp
〈クリニック〉
〒120-0006　東京都足立区谷中3-6-9
TEL 03-3605-2821（代）
東京メトロ千代田線 北綾瀬駅より徒歩5分
診療科目:循環器・心臓血管外科
東京都2次救急指定病院／東京都CCUネットワーク加盟施設
日本医療機能評価機構認定病院